

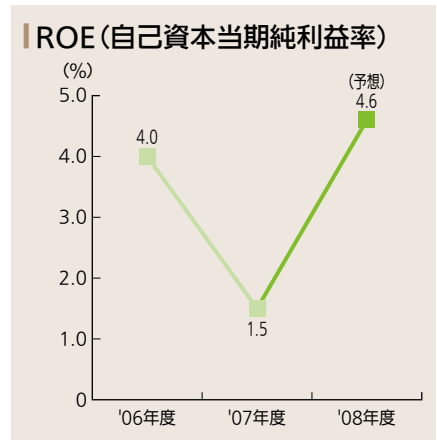
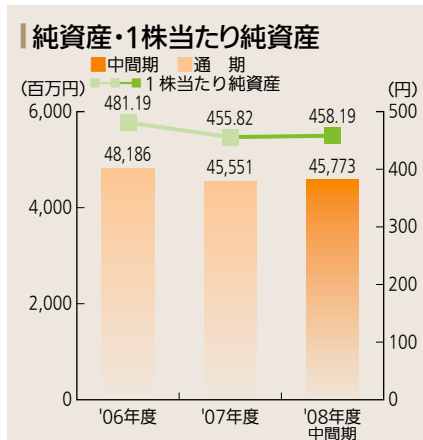
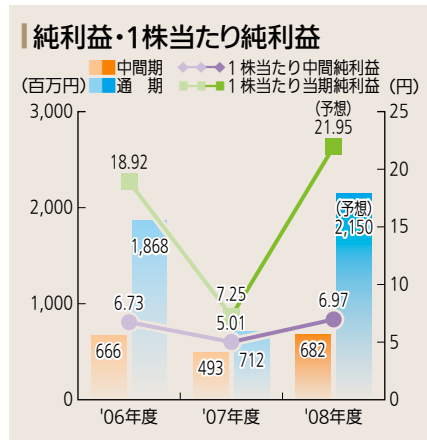
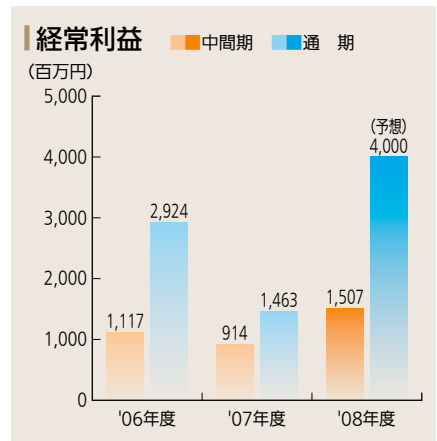
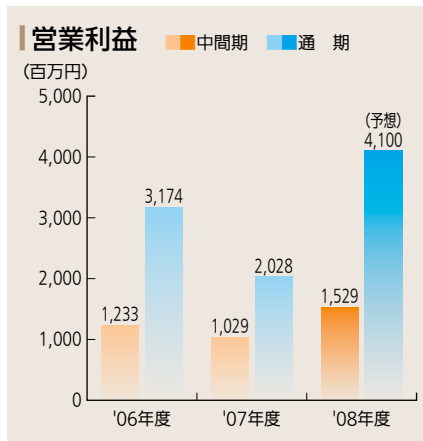
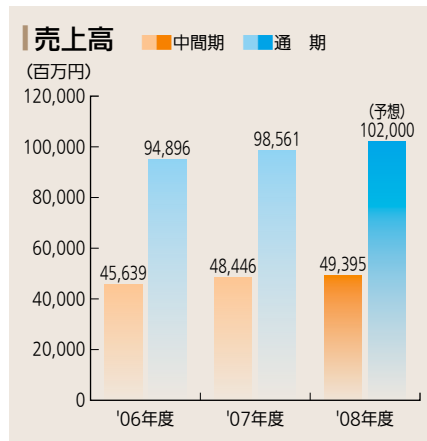
第 65 期
中間報告書

2008年4月1日～2008年9月30日



積水化成工業株式会社

連結財務ハイライト



目次

連結財務ハイライト 1

株主の皆様へ 2

2008年度中間期の事業別概況(連結) .. 5

高機能材料のご紹介 7

トピックス 9

財務諸表 11

株式の状況 12

会社概要 13

株券の電子化について 14

株主の皆様へ

Q まず最初に、当中間期の連結業績はどうでしたか？

米国発の金融危機に端を発した世界的な経済悪化懸念や、原油高に伴うナフサ・ベンゼンなどの石油化学製品の価格高騰で、収益環境は一層厳しさを増しました。このような経営環境のなか、当社グループは3ヵ年中期経営計画「DASH50 - Stage II」の最終年度を迎えました。

当中間期は、「ピオセラン」など自動車・デジタル家電向けの高機能品の売上は好調に推移しました。一方で、汎用品の売上数量は低調に推移するなか、価格改定を進めました。その結果、当中間期の連結業績は、増収増益となりました。

当中間期の配当につきましては、1株につき4円とさせていただきます。年間では前期と同じく1株につき8円を予定しております。なお、中間配当金の支払い開始日は12月5日となります。



代表取締役社長 小野 恵造

Q 業績向上のための新製品開発やM&Aの状況を教えてください。

新製品開発としましては、低温度領域での包装・物流向けに以前より開発していた高密度ポリエチレン発泡シート「ピーセル」（製品名）を本格的に上市しました。「ピーセル」は低温度でも割れにくく、仮に割れた場合でも破砕片が発生しない新製品です。また、液晶テレビなどのバックライト反射板として光学用高機能樹脂反射板「レフテラス」（製品名）を開発しました。「レフテラス」は熱成形性があるので装置や光源に合わせた光学設計の自由度が向上し、光源の反射効率をよりアップさせることも可能になります。

一方、M&A実績としましては、サンポリマー株式会社（株式会社カネカ100%出資会社）のポリスチレンペーパー事業を2009年1月をめどに譲り受けることでカネカと基本合意しました。これにより、販売拡大とともに、生産設備の集約化やさらなる技術の向上、配送の効率化などをはかっていくため、円滑な譲り受けを行います。

Q 環境への取り組みの状況を教えてください。

当社グループは、主力製品である省資源素材「発泡プラスチック」を通して、社会と地球の持続的発展に貢献していく企業活動を進めています。また、環境配慮の新製品開発としてポリ乳酸系植物由来樹脂を用いたビーズ法樹脂発泡体の開発に成功し、「易成形性」「150℃までの加熱寸法安定性」「高強度」などの特長が、環境負荷の低い材料として注目されています。その他にも、省エネルギーやゼロエミッション活動による廃棄物の削減に取り組み、2007年度では全グループ会社でエネルギー原単位削減1%以上、再資源化目標である99%以上を達成しました。



ポリ乳酸樹脂を使った成形サンプル

Q 中期経営計画「DASH50-Stage II」の最終年度の2008年度連結決算の見通しについて教えてください。

2008年度連結業績見通しにつきましては、中期経営計画「DASH50-Stage II」の最終年度目標である連結売上高1,000億円以上、連結経常利益50億円以上を掲げておりますが、不透明感が強まりますます厳しさを増す経営環境を勘案し、連結売上高1,020億円、連結営業利益41億円、連結経常利益40億円、連結当期純利益21億5千万円を見込んでおります。

今後も世界的な景気後退局面を迎え、厳しい収益環境が続くと予想されますが、汎用品につきましては原燃料価格の動向を注視し、適切な対応に努めるとともに、グループあがての省エネルギー・コストダウンに引き続き取り組みます。また、高機能品のグローバル展開をさらに加速し、新機能・新分野での需要開拓を進めることで、収益目標達成に向け注力してまいります。

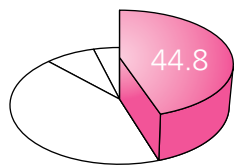
Q 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

米国に端を発する金融危機、急激な円高、原油価格の乱高下など、世界を取り巻く経済情勢は予測不可能な状況となっておりますが、当社は「発泡プラスチックのトップメーカー」として、汎用品はもとより高機能品の大幅な伸長をはかることにより、さらなる業績向上に邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては何卒倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



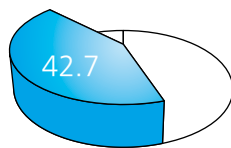
2008年度中間期の事業別概況（連結）



(売上構成比：%)

樹脂事業

売上高…… 22,131百万円
売上構成比…… 44.8%



(売上構成比：%)

シート事業

売上高…… 21,097百万円
売上構成比…… 42.7%

主力の「エスレンビーズ」は、売上数量はほぼ前年同期並みでしたが、原材料などの価格高騰に伴う製品価格改定を進めた結果、売上金額は増加しました。一方、国内関連子会社は原材料価格上昇分の転嫁が遅れたことなどから採算改善が進みませんでした。高機能発泡製品では、「ピオセラン」などを素材としたデジタル家電梱包材・自動車部材・自動車部品梱包材が好調に売上を拡大しました。高機能材料では、「テクポリマー」は、光拡散分野での新規需要に加え、塗料・化粧品などの分野が伸長した結果、売上が増加しました。また「テクノゲル」は、日東電工株式会社から譲り受けたハイドロゲル事業が寄与し、大きく売上を伸ばしました。



ツールボックス(ピオセラン)

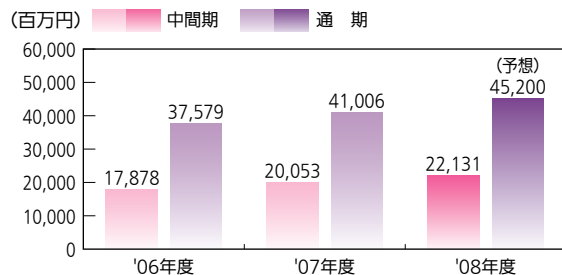
主力の「エスレンシート」は、需要低調と容器軽量化の影響を受け、売上数量は前年同期を下回りましたが、原料などの価格高騰に伴う製品価格改定を進めた結果、売上金額はほぼ前年同期並みとなりました。

一方、食品容器加工を主体とした関連子会社については、受注量の減少などの影響を受け売上が減少しました。また「ライトロン」、「エスレンウッド」は前年同期並みで推移しました。

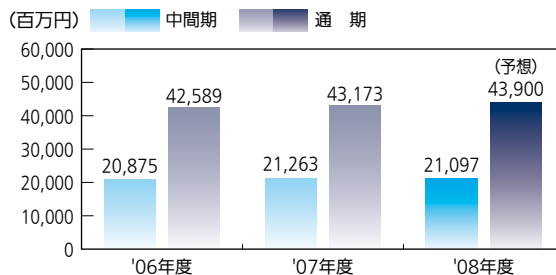


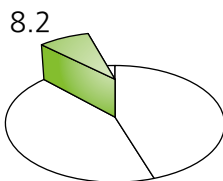
パネル合紙
(ライトロンCE)

売上高



売上高

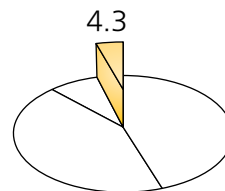




(売上構成比：%)

建材事業

売上高…………… 4,066百万円
 売上構成比…………… 8.2%



(売上構成比：%)

その他事業

売上高…………… 2,100百万円
 売上構成比…………… 4.3%

土木分野において、「EPS土木工法」の物件完工増などにより売上が増加しましたが、「エスレンフォーム」や「ESダンマット」など建材分野において、住宅着工の不振や低採算品からの撤退などにより売上が大きく減少しました。



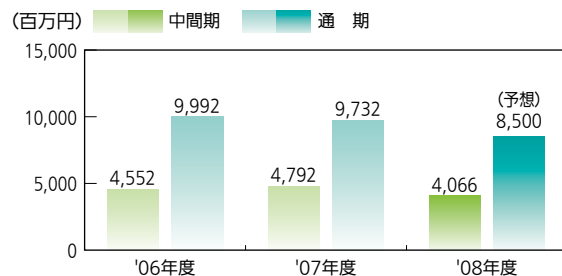
EPS土木工法

ファーストフード向け「パルプ容器関連商品」が顧客のキャンペーン商品の好調により売上が増加しましたが、その他の商品は売上が減少しました。

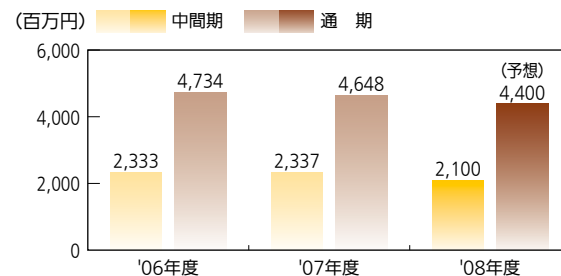


パルプ容器関連商品(ファーストフード容器)

売上高



売上高



高機能材料のご紹介

テクポリマー

「テクポリマー」は、セキスイ独自の重合技術から生まれた微粒子ポリマーです。

真球状粒子から半球状粒子（異形粒子）、中空粒子などさまざまな形状制御が可能であり、その粒子の大きさは1～100 μm (0.001～0.1mm) の間で自由に調整でき、耐熱性、耐溶剤性、屈折率を多種多様なニーズに合わせてカスタマイズしながら産業に貢献しています。

主な用途は、液晶ディスプレイなどの光拡散分野、化粧品分野、塗料分野で使用されており、他に歯科材料分野、セラミック分野においても使用されています。

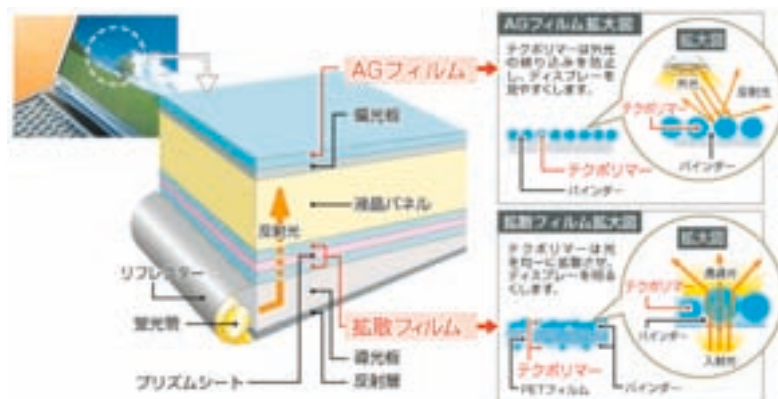
海外販売比率は50%を超え、グローバルな展開を目指してまいります。



化粧品分野



塗料分野



光拡散分野

テクノゲル

「テクノゲル」は、セキスイ独自の重合技術から生まれたハイドロゲル（機能性高分子ゲル）です。

当社の重合技術を活かし、ゲルの中に水と保湿剤、電解質などを安定に保持させ、皮膚への優しさも追求した素材です。特徴としては、使用される皆様の肌を第一に考えた低皮膚刺激性と高い機能（粘着性、導電性、弾性）を付与できる点が挙げられます。

2008年4月に日東電工株式会社から譲り受けた心電図検査用ゲルも売上拡大に寄与しました。医療分野をはじめ、美容・健康分野への展開を進めるとともに、今後は工業用途など産業分野の取り組みも強化してまいります。



医療分野



健康分野



美容分野



ゲルシート

トピックス

「サンポリマー株式会社の ポリスチレンペーパー事業を譲り受け」

当社は、サンポリマー株式会社（株式会社カネカ100%出資会社）のポリスチレンペーパー事業を2009年1月をめぐりに譲り受けることでカネカと基本合意しました。公正取引委員会の審査・承認を得た上で実施する予定です。

今回の基本合意は、原料ポリスチレンの高騰や食品容器用素材の多様化などで、当該事業の競争力維持・強化には、最善の策であると両社の考えが一致したものです。

これにより、販売拡大とともに、生産設備の集約化やさらなる技術の向上、配送の効率化などをはかっていくため、円滑な譲り受けを行います。



ポリスチレンペーパー

「高密度ポリエチレン発泡シートを上市」

当社は、低温度領域での包装・物流用途に以前より開発していた高密度ポリエチレン発泡シート「ピーセル」（製品名）を上市しました。

これまで、冷凍食品向け包装材料に使用されている素材では、冷凍状態などの低温度領域での破損・割れなどの問題がありました。

そこで、低温度領域でも割れにくく、仮に割れた場合でも破砕片が発生しない高密度ポリエチレン材料に着目し、これを発泡させることによりさらに緩衝性と断熱性を付加した「ピーセル」を開発しました。

今後は、冷凍用容器向け以外にも、各種フィルムと貼り合わせることで機能性の高い複合品の上市や、柔軟性を生かして工業用途など非食品分野へも展開をはかり、2009年度には2億円の販売を目指します。



高密度ポリエチレン発泡シート（ピーセル）

「光学用高機能樹脂反射板を上市」

当社は、現在ある高機能樹脂発泡シートをさらに進化させ、光学用途に対応した高機能樹脂反射板「レフテラス」を上市しました。

近年、液晶テレビや照明看板、照明などに使われる光反射板は、環境問題からより高性能、光源の高効率化が求められ、部材ならびに装置全体のコストダウンが要望されていますが、従来の反射フィルム・シートでは組み立て時に複雑な形状を付与することが困難でした。レフテラスは全反射率98%以上で、熱成形による形状付与が可能ですので、装置や光源に合わせた光学設計の自由度が向上し、光源の反射効率をよりアップさせることが可能です。今後は、量産試作ラインで製造を行い、市場評価およびテスト販売を実施し、市場開発を進めます。



光学用高機能樹脂発泡シート（レフテラス）

「欧州の『ピオセラン』生産拠点が稼働開始」

当社は、高機能発泡製品「ピオセラン」の欧州での生産・販売拠点として Sekisui Plastics Europe B.V. を昨年オランダに設立しました。このたび新工場が完成し、稼働を開始しました。

この拠点は、当社グループの中期経営計画「DASH50 - Stage II」の重要施策である「ピオセラン」の世界戦略において、欧州向け自動車部材・IT機器梱包材のコア拠点と位置づけており、2010年度の売上高は11億円を目標にしています。



Sekisui Plastics Europe B.V.（オランダ）

財務諸表

■ 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

期 別 科 目	当中間期 (2008年9月30日現在)	前 期 (2008年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	42,790	40,169
現金及び預金	3,942	5,689
受取手形及び売掛金	27,981	24,199
たな卸資産	8,555	8,262
その他	2,311	2,017
固定資産	51,571	51,173
有形固定資産	40,008	39,597
無形固定資産	645	624
投資その他の資産	10,917	10,951
資産合計	94,361	91,342

期 別 科 目	当中間期 (2008年9月30日現在)	前 期 (2008年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	35,853	34,072
支払手形及び買掛金	16,914	16,021
その他	18,939	18,050
固定負債	12,734	11,719
負債合計	48,588	45,791
(純資産の部)		
株主資本	42,633	42,394
評価・換算差額等	2,248	2,258
少数株主持分	891	899
純資産合計	45,773	45,551
負債・純資産合計	94,361	91,342

■ 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

期 別 科 目	当中間期 (自2008年4月1日 至2008年9月30日)	前中間期 (自2007年4月1日 至2007年9月30日)
売上高	49,395	48,446
売上原価	39,170	38,656
販売費及び一般管理費	8,695	8,759
営業利益	1,529	1,029
営業外収益	322	226
営業外費用	345	342
経常利益	1,507	914
特別利益	583	366
特別損失	474	87
税金等調整前中間純利益	1,615	1,193
法人税、住民税及び事業税	770	342
法人税等調整額	127	297
少数株主利益	35	59
中間純利益	682	493

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

期 別 科 目	当中間期 (自2008年4月1日 至2008年9月30日)	前中間期 (自2007年4月1日 至2007年9月30日)
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 1,452	796
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 2,433	△ 1,335
財務活動による キャッシュ・フロー	2,074	303
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 60	39
現金及び現金同等物の 増減額	△ 1,871	△ 195
現金及び現金同等物の 期首残高	5,523	6,089
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	124	—
現金及び現金同等物の 中間期末残高	3,776	5,894

株式の状況 (2008年9月30日現在)

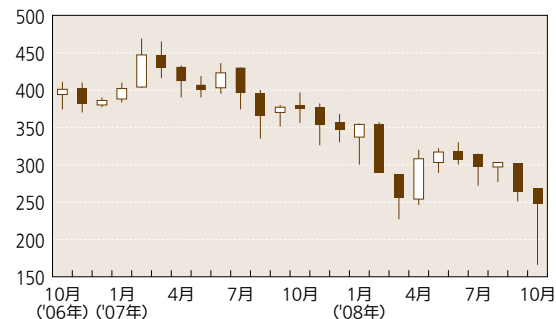
発行可能株式総数	249,502,000株
発行済株式の総数	99,976,218株
株主数	5,610名

大株主 (上位10名)

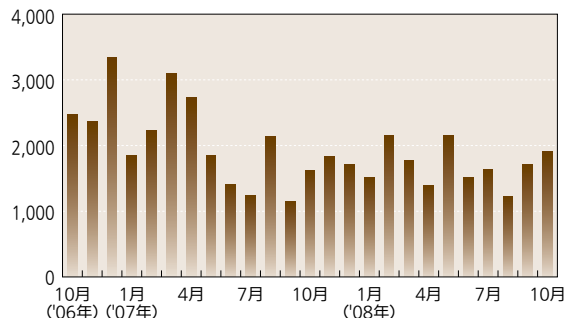
株主名	所有株式数 千株	所有比率 %
積水化学工業株式会社	23,337	23.81
第一生命保険相互会社	6,063	6.18
大同生命保険株式会社	5,672	5.78
積水化成品従業員持株会	2,745	2.80
株式会社エフピコ	2,697	2.75
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,655	2.70
積水樹脂株式会社	2,632	2.68
旭化成ケミカルズ株式会社	2,500	2.55
住友化学株式会社	2,500	2.55
電気化学工業株式会社	2,000	2.04

株価・出来高の推移 (東京証券取引所 市場第1部)

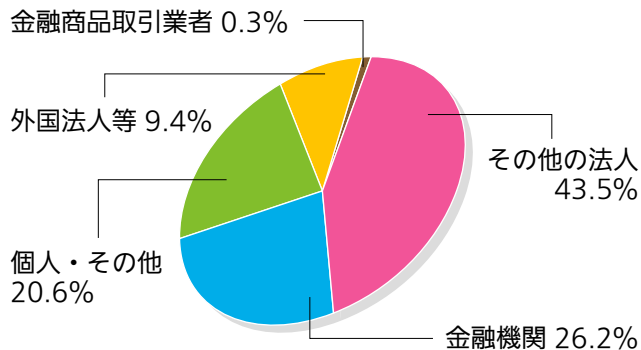
■ 株価 (円)



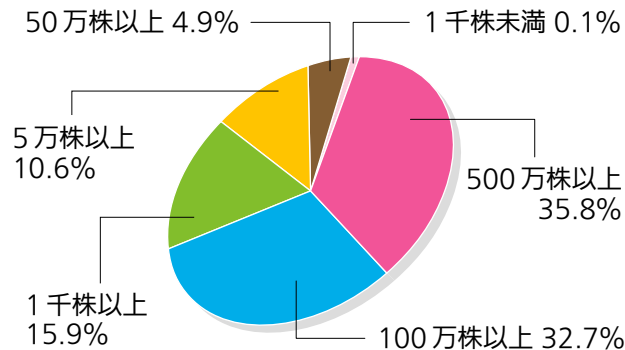
■ 出来高 (千株)



所有者別分布状況 (所有比率)



所有株数別分布状況 (所有比率)



(注) 所有比率は、自己株式(1,985千株)を控除して計算しております。

会社概要

会社の概要 (2008年9月30日現在)

商号	積水化成工業株式会社 (英文商号) (SEKISUI PLASTICS CO.,LTD.)
本社	大阪市北区西天満二丁目4番4号
設立年月日	1959年10月1日
資本金	16,533,476,176円
従業員数	455名
営業品目	<p>樹脂事業 エスレンビーズ、ピオセラン、テクポリマー、テクノゲル、自動車関連資材、産業包装材、その他樹脂関連商品</p> <p>シート事業 エスレンシート、ラミネート、エスレンウッド、ライトロン、その他シート関連商品</p> <p>建材事業 エスレンフォーム、エスレンネダマット、ティエスサンド、エスレンボイド、エスレンブロック (EPS 土工法)、TYK フォーム、その他建材関連商品</p> <p>その他事業 物流資材関連商品、パルプ容器関連商品、その他商品</p>

役員 (2008年9月30日現在)

取締役

代表取締役社長	小野 恵 造
専務取締役	東 克 信
常務取締役	中 屋 一 徳
常務取締役	深 尾 茂 博
常務取締役	佐 野 芳 秀
常務取締役	西 川 誠 治
常務取締役	奈 良 健 一 郎
取締役	歳 谷 耕 二
取締役	辻 村 博 志
取締役	資 延 利 夫
取締役	佐々木 正 朋
取締役	柏 原 正 人

監査役

常勤監査役	川 部 道 雄
常勤監査役	佐 藤 幹 夫
監査役	満 生 英 二
監査役	今 野 照 雄

ホームページアドレス <http://www.sekisuiplastics.co.jp>

※本報告書の記載金額および株式数については、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しています。

株券の電子化について (2009年1月5日施行の株券電子化実施に伴うお知らせです。)

1. 特別口座について

(1) 特別口座への口座残高の記帳

株券保管振替制度をご利用でない株主様につきましては、ご所有の株式は三菱UFJ信託銀行に開設される特別口座に記録されます(2009年1月26日に記録される予定です)。なお、特別口座に記録された株式数等のご案内は、2009年2月中旬頃に、三菱UFJ信託銀行から、お届けのご住所宛にお送りする予定です。

(2) 特別口座に記録された株式に関する手続き

特別口座に記録された株式に関する手続き(株主様の口座への振替請求・単元未満株式買取(買増)請求・お届出住所の変更・配当金の振込指定等)につきましては、株券電子化実施後、下記口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)の連絡先にお問い合わせください。なお、特別口座に記録された株主様の手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行の全国本支店でお取次ぎいたします。

(3) 特別口座の口座管理機関および連絡先

特別口座の口座管理機関は、当社株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行となります。

口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL:0120-094-777 (通話料無料)

(4) 特別口座の口座管理機関でのお手続きの受付の開始時期

特別口座に記録された株式についての、株主様の口座への振替請求、単元未満株式買取(買増)請求等の各種ご請求やお届出につきましては、2009年1月26日(月)以降にお手続きが可能となりますので、ご注意ください。

2. 株券電子化前後における単元未満株式買取・買増のご請求について

株券電子化の前後においては、単元未満株式買取請求ならびに買増請求につきまして、以下のとおりとなりますので、ご注意ください。

(1) 株券保管振替制度をご利用でない単元未満株式に関するご請求

① 単元未満株式買取請求

2009年1月5日(月)から2009年1月25日(日)までは、受付をいたしません。

また、2008年12月25日(木)から12月30日(火)までのご請求受付分につきましては、買取価格はご請求受付日の終値を適用いたしますが、買取代金のお支払いを2009年1月30日(金)とさせていただきます。

② 単元未満株式買増請求

2008年12月12日(金)から2009年1月25日(日)までは、受付をいたしません。

(2) 株券保管振替制度をご利用の単元未満株式に関するご請求

株券電子化実施の前後において、一定期間お取引の証券会社で取次ぎを行わないと承っております。

具体的な日程につきましては、証券会社により異なることが考えられますので、お取引の証券会社にお問い合わせください。

3. 株主様のご住所およびお名前のご登録について

株主様のご住所およびお名前の文字に、振替機関(証券保管振替機構)で指定されていない漢字等が含まれている場合には、その全部または一部を振替機関が指定した文字に置き換えのうえ、株主名簿にご登録いたします。この場合、株主様にお送りする通知物の宛名は、振替機関が指定した文字となりますのでご了承ください。

経営理念

われわれは、人間尊重と相互信頼を基本に、
全員の英知と情熱を結集し、
“新しい幸せをめざして”
不断の前進をつげます。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日、期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問合せ先)	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話：0120-094-777 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 ※株式関係のお手続用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行 の電話およびインターネットでも24時間承っております。 なお、株券電子化実施後は、特別口座に記録された株式につい ての手続き用紙のみとなりますので、ご留意ください。 電話 (通話料無料) 0120-244-479 (東京) 0120-684-479 (大阪) インターネットホームページ http://www.tr.mufig.jp/daikou/
公告の方法	電子公告 公告の内容は、当社ホームページにおいてご覧ください。 http://www.sekisuiplastics.co.jp/koukoku/
上場証券取引所	東京・大阪両証券取引所市場第1部
※株主様のお問合せ先	積水化成成品工業株式会社 総務部 電話06-6365-3014